

武家の式楽 ー 能 ー

平成31年1月4日(金)～3月24日(日)

A:1月4日(金)～1月29日(火) B:1月30日(水)～2月26日(火) C:2月27日(水)～3月24日(日)

足利将軍家は、猿楽＝能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行なわれ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
1	能面 黒式尉		江戸	17-18	A
2	能面 小飛出 黒漆銘「天下一角坊」(花押)	角ノ坊作	桃山	16	B
3	能面 黒髭		江戸	18	C
4	能面 増 焼印「天下一近江」	近江満昌作	江戸	17	A
5	能面 小面	伝是閑吉満作	桃山-江戸	16-17	B
6	能面 般若		江戸	18	C
能舞台					
7	紅地九曜星菱に菊花文厚板唐織		江戸	18	A
8	赤地亀甲に鳳凰の丸文厚板唐織		江戸	17	C
9	紫・紅・水色段霞に菊・桐・火焰太鼓文唐織		江戸	19	B
10	萌黄地亀甲に鳳凰文厚板		江戸	17	B
11	白地亀甲に雪輪・蒲公英文縫箔		江戸	17-18	A
12	花色地紋尽縫箔		江戸	17	C
13	浅葱地蜀江文狩衣		江戸	19	A
14	赤地亀甲文金襴袷狩衣		江戸	18	B
15	白地立涌文金襴袷狩衣		江戸	18	C
16	赤地蔦唐草文金襴舞衣		江戸	17	A
17	紺地唐花文金襴袷法被		江戸	19	B
18	萌黄地雲巴文金襴袷法被		江戸	18	C
19	染分梅尽文素袍		江戸	19	A
20	浅葱地梅・鶴亀文直垂		江戸	18	B
21	黒地若松に鶴亀文直垂		江戸	18	C
22	翁烏帽子		江戸	19	A
23	葵紋紗綾形蒔絵面箱		江戸	17	A
24	鈴		江戸	19	A

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
25	白狐戴		江戸	19	B
26	龍戴		江戸	19	C
27	鉄線唐草蒔絵葛桶		江戸	19	BC

以上

第4展示室のみどころ①

尾張徳川家の能面

能には、^{かんぜ}観世・^{ほうしやう}宝生・^{こんぼる}金春・^{こんごう}金剛などの流派がある。尾張徳川家では、初代義直以来金春流をシテ（主役）方として重用してきたが、3代^{つななり}綱誠は宝生流を金春流と同格に扱い、6代^{つぐとも}継友の時代に金剛流、10代^{なりとも}齊朝の時代に観世流を重用したため、それぞれの流派にちなんだ能面が製作された。

徳川美術館には、現在、尾張徳川家に伝えられた能面126面、狂言面30面が保存されている。中には、伝説的な能面の作者である^{にっこう}日光や^{えちきつしゆう}越智吉舟作と伝えられる室町時代の面をはじめ、^{ぜかん}是閑^{よしみつ}吉満や^{ゆうかんみつやす}友閑満庸、^{かわちだいじゆういしげ}河内大掾家重など名人として名高い面打師たちの作品が多く含まれており、尾張徳川家の能面コレクションの質の高さを示している。

第4展示室のみどころ②

女面の表現

能では、役を演じ分けるために、^{じゆう}翁・^{しゆう}尉・男女・鬼神・霊など多様な能面が用いられる。能面の多くは喜怒哀楽をはっきりと示さないが、造形上の工夫によって年齢や精神を表出している。例えば若い女の小面は、成人女性が眉毛を抜いて眉ずみで高眉を描き、お歯黒をする風習を写している。頭髮は中央から左右に分け、二・三筋の毛描^{けがき}を自然の流れに沿って頬^{ほほ}の下まで伸ばす。一方、歳を重ねた曲見^{しやくみ}は、額^{あご}と顎を突き出し、顔の中央部をくぼませて老けを表している。毛描も役の性格を表す重要な描写で、小面が整った頭髮なのに対し、乱れ髪の筋が増えた面は、年齢を重ねていることを示している。また、^{まぶた}瞼の線を絶妙に湾曲させ、^{わんきょく}伏し目がちにして表情に憂いを帯びさせるなど、年齢だけではなく感情までも表している。

第4展示室のみどころ③

能装束の種類

能装束とは、一般的には能を演じる人が、能面や太刀・扇などの道具以外の身につけるさまざまな衣装をいい、演目や役柄によって一定の決まりがある。

「^{からおり}唐織」は能装束を代表する最も絢爛豪華な装束で、主として女役^{うわぎ}の表着として使用される。若い女役に用いられる紅色の入った紅入と、中年以上の役柄に用いられる紅色のない紅無^{いろなし}の区別がある。このほか、女性役^{こしまき}の腰巻や貴族・童子^{きつけ}の着附に用いられる「^{ぬいはく}縫箔」、金箔や銀箔を糊で貼り付け文様を表した「^{すりはく}摺箔」、主として少年から老人までの男性の着附のほか、荒神・鬼畜の類の役や年配の女性の表着にも用いられる「^{あついた}厚板」、公達^{よろい}の鎧姿や優雅な舞いを舞う女性役の表着に使用される「^{ちようけん}長絹」などがある。

男性役では「^{かりぎぬ}狩衣」や「^{はっぴ}法被」があり、いずれも単と袷がある。「袷狩衣」は、大臣・神体・天狗・鬼などの威厳のある強い役に、^ろ絹や^{しや}紗などの薄ものの^{きれじ}裂地に金や銀の糸で文様を織り込んだ「単狩衣」は神主や老神に、また袷の「法被」は鬼畜・怨霊などの強い役柄や唐人、武将の鎧姿などに、単の「法被」は肩脱ぎの形で平家の公達の武装姿に用いられた。